

- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しようは一ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さけて書きはじめ、だんらくしようにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

心を育ててくれた自然
 6年 永田小学校 岡 和奏
 今日はどうやらたいこ岩という山に登るらしい。しようじき、都会の大阪から留学で屋
 又島に来た私は山に登ったことがない。でも
 今日、人生はじめての山に登るのだ。いろいろ不安はあるがとにかく登ってみよう。
 と決心した。さて、登山口に着いた。今まで
 の味わったことのない、川のせせらぎ、鳥が
 元気よく歌う声、そして、岩と岩のすき間が
 ら小さな芽を出しているものもある。そして、
 しかかさるたちがいた。私たちを出むかえて
 くれた気がした。そう、途中で山に登ると
 思ったら気持ちが悪く、くたくして来た。さあ
 山に登るぞ、と言った。山に登りはじめた。と
 ても道が急で、でこぼこしていて、とても
 歩きずらかった。でもあきらめずに歩いた。
 そして、やと休けいに入った。しようじき
 ずと休けいしていたいと思つた。そして、
 再び山に登ろうと思ひ、顔を上げると、みど

- 4、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいてもくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは三きようめに書き、文しようは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さけて書きはじめ、だんらくしよきにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

り色の世界が広がっていた。それだけではな
い、こんなところにも小さな川が流れてい
るではないか。この川はどこから流れてい
るのか。疑問だと思っただ。そして、疑問
をもったところまで歩き出す。歩いて歩い
て歩いて歩いて歩いて歩いて歩いて歩いて
歩いて歩いて歩いて歩いて歩いて歩いて歩
いた。しかし、はじめてたからゴールがわか
らなかつた。そう思ったらよけいにきつた。
そして、お弁当を食べることになった。私
はたきの水がながれるようにお弁当のおかず
を口の中に入れた。弁当はいつもより味はか
くべつだ。そして、弁当を食べ終わって、再
び歩きはじめた。そして、ささき川のほと
りから歩いていけるのかをお母さんに聞い
た。お母さんは、よくわからないけど、山
の上から歩いていける。水はないかな。と
言っていた。私の意見では山の上には雨
水がたまり、それが流れているのだと思
う。そうして、木々の間からすき間があ
った。そこをのぞいてみると、

No.

- 4 、と。は、それぞれ一字にぞえて、「マスの中」に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは二ぎようめに書き、文しようは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましょう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さけて書きはじめ、だんらくしとにぎようをかえましょう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましょう。

(月 日 曜日)

下にはゆうだいな海が広がり、まわりは全部
 山だった。その山を見ていたら小さな道があ
 る。そこを見ていたら、車やバスが行き来し
 ていた。その車たちはとても小さく、それを
 見るたびに、こんな高いところまで登った
 と実感した。そしてお母さんが
 そろそろ頂上につくよ
 と言った。私はなぜかがんばったか
 たなと思っただけ。そしてよく頂上についた。
 私の山の頂上とはちよつとイメージが
 たが、いろいろ山があるのかな。と思っ
 てもそれは絶景だった。しかも今まで味
 たことのない達成感があった。山に登っ
 かったと思っただけ。

- 4 と、と、は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましょう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなだけを書きましょう。

(不許複製)

